

令和4年度
社会福祉法人彩光会ころぼっくる保育園

保育所の自己評価(総括)

氏名 片山 孝美

<評価について>

評価をするにあたっては、以下のような基準で行なっています

- A — 理想的な状況にある状態
- B — 通常行われている状態
- C — 一部改善・あるべき姿に到達していない状態

I 保育理念

1. 子どもの最善の利益の考慮

項目	内容	評価	意見・改善策
(1)子どもの人権の尊重	子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりを大切にする保育を行っている。	A…14 B…2	A…79% B…21% 保育指針にある『主体的・対話的・深い学び』を職員会議などで伝え丁寧な保育に取り組むことができていると考える。
(2)保育方針・保育目標	保育理念・指針・保育目標について理解し作成している。	A…11 B…5	

II 子どもの発達援助

2-1. 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場

項目	内容	評価	意見・改善策
(1)健康・安全で心地よい生活	子どもが快適に過ごせるような環境への配慮がされている。	A…13 B…3	A…86% B…14% こどもの主体的な遊びが展開できるような環境設定を職員で話し合い、見直すところは改善するよう心掛けた。
(2)子どもの主体的な生活	子どもの主体的な遊びを尊重している。	A…14 B…2	
(3)人との関わりを育む環境	遊びや生活を通して、子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮している。	A…14 B…2	

2-2. 生活と発達の連続性

項目	内容	評価	意見・改善策
(1)子ども観・発達観の理解と共有	保育指針や理念を理解し、子どもを愛護しながら育むことを共有している。	A…13 B…3	A…75% B…25% 一人ひとりを尊重し、寄り添いながら応答的な保育を行うことを実践する。家庭環境や個人差など配慮しながら丁寧な保育を心掛ける。
(2)発達過程に応じた保育	発達過程を踏まえ、保育過程を作成し、保育している。	A…12 B…4	
(3)個人差への配慮	一人ひとりの子どもの発達に配慮している。プライバシーへの配慮がされている。	A…12 B…4	
(4)生活への連続性	長時間保育のための環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	A…11 B…5	

2-3. 養護と教育の一体的展開

項目	内容	評価	意見・改善策
(1)乳児保育	乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	A…14 B…2	A…83% B…17% 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、衛生面ではアルコール消毒や飛沫防止などのパーティションを設置し安全に保育が実施できるよう配慮した。小学校との連携は対面ではなくDVDや書面を通して学校の様子などを知ることができた。
(2)1・2才児の保育	1・2才児の保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	A…14 B…2	
(3)3・4・5才児の保育	3・4・5才児の保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	A…15 B…1	
(4)小学校との連携	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかわりに配慮している。	A…11 B…5	

2-4. 環境を通して行う保育

項目	内容	評価	意見・改善策
(1) 保育の環境 ・人的環境 ・物的環境 ・空間 ・自然や社会現象	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A…11 B …5	A…55% B…45% 子どもが安全に遊べるように、室内外の安全点検を毎月実施する。また、遊具の安全点検も専門業者による点検も年1回実施する。 園庭の他に、3歳未満児用に仕切られたスペースの第二園庭を設置し安全に保育するよう環境を整えた。
	子どもが基本的に生活習慣を身につけ、積極的に活動ができるような環境が整備されている。	A…11 B …5	
	子どもが自発的に活動できる環境が整備され、身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがされている。	A…7 B …9	
	遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	A…11 B …5	
(2) 環境の構成・再構成	快適な環境に整備や空間を使つての工夫している。	A…4 B …12	

Ⅲ 保護者に対する支援

3-1. 家庭との緊密な連携

項目	内容	評価	意見・改善策
(1) 子どもの成長の喜びを共有	子どもの様子について日々、保護者に伝えるなど情報を共有し、成長を喜び合い、共有できる機会を設けている。	A…11 B …5	A…75% B…25% 新型コロナウイルスが5類に変更されたことにより、行事や送迎方法がかわった点がある。懇談会や保育参加は積極的に取り入れて保護者にこどもの様子を伝えていこうと考えている。
(2) 保育内容等の説明・応答責任	入所時、懇談会、保育参加等の機会をとらえ、説明・応答する機会を設けている。	A…10 B …6	
(3) 子育てに関する相談・援助	相談・苦情・意見などは、随時所長・副所長が窓口となり対応している。	A…13 B …3	
(4) 保護者への個別支援	一人ひとりの保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、支援している。	A…14 B …2	

3-2. 地域における子育て支援

項目	内容	評価	意見・改善策
(1) 保育所機能の開放	公開保育や電話相談、交流保育など子育て支援のための取り組みを行っている。	A…15 B …1	A…88% B…12% 毎月、公開保育を実施し地域の方との交流保育を行う。また、子育て支援拠点施設や一時預かり保育や病後児保育を通じて地域に根ざした保育に取り組んでいる。
(2) 関係機関との連携	保育所として必要な社会資源を明確にし、地域の関係機関との連携が適切に行われている。	A…13 B …3	
(3) 情報提供	保育所が有する機能を地域の子育て支援に関する情報提供をしている。	A…14 B …2	

IV 保育を支える組織的基盤

4-1. 健康及び安全の実施体制

項目	内容	評価	意見・改善策
(1)健康の保持及び増進	全職員が健康及び安全に関する共通理解を深め、適切な分担と協力の下に年間を通じて取り組んでいる。	A…14 B …2	A…88% B…12% 朝礼や会議で安全対策について共通認識を持つことを心掛ける。また、看護師により保健だよりを発行し季節に流行る感染症や内科健診や歯科健診の結果など保護者に向けた情報提供を行っている。
(2)安全・衛生管理	安全管理のマニュアルがあり、緊急時に備えた安全対策が実施されている。	A…14 B …2	
	施設的环境を常に適切な状態に保持し、衛生管理に努めている。	A…14 B …2	
(3)家庭や保健・医療機関等との連携	安全対策のために職員への共通理解、体制作りを図るとともに家庭や諸機関との連携をとっている。	A…14 B …2	

4-2. 職員の資質向上

項目	内容	評価	意見・改善策
(1)保育の計画	全体的な計画・年間計画に基づき、月間計画・週案・日案及び個人の計画を行っている。	A…13 B …3	A…78% B…22% 保育計画は、こどもの成長発達を理解した上で立案している。 法人を通して、自己評価を年3回設けるなどして振り返りを行っている。
(2)保育士等の自己評価	保育計画に添い自らの実践と、子どもの育ちを振り返り、自己評価を行い、保育の改善を図っている。	A…13 B …3	
(3)保育所の自己評価	自己評価表に基づき、行っている。	A…11 B …5	
(4)研修	外部研修・園内研修など職員に応じた研修を行い、資質の向上に努めている。	A…13 B …3	

4-3. 運営・管理, 社会的責任

項目	内容	評価	意見・改善策
(1)法令等の遵守	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A…12 B …4	A…81% B…19% 保護者からの苦情や意見なども苦情解決要領に基づき適切に対応している。 こどもの安全を第一に考え、施設長としての責務を日々全うできるようにしている。
(2)個人情報の取扱と苦情解決の責任	個人情報の取り扱いは誓約書で確認し、苦情・意見などは随時所長・副所長が窓口となり解決に向けて対応している。	A…13 B …3	
(3)施設長の責務	自らの役割と責任を明確にし、理解を図っている。	A…14 B …2	

総括

《総合評価》

* 保育所保育指針の通り『主体的、対話的、深い学び』を年度はじめに職員に伝え、年間を通して振り返りを行ってきた。これからも、丁寧な保育に取り組んでいこうと考える。

* 新型コロナウイルスの影響により制限のある生活となったが、行事の進め方や参加人数などを工夫しながらコロナ以前の行事と同じような内容で一年間を締めくることができた。公開保育に参加する地域の方からコロナ禍でも多くの行事を実施していることに対して深く感心を示されていた方が複数人いた。

* 職員の資質向上において、コロナ禍にあり研修の参加方法も劇的に変化した。オンライン研修が主流になり会場に行かなくてもその場で研修が受けられるという点ではとても便利に参加することができた。それにより、多くの職員がオンラインを通して研修に参加した。保育計画等、研鑽を積みながら保育所保育指針に沿った内容のものにして行く必要があると感じている。

* 新型コロナウイルスの影響により、近隣の小学校との交流会は中止となった。しかしながら、DVDを介して小学校の様子や生活などを見ることができて年長児は安心していた。今後も、保幼小の連携に参加していきたい。

《まとめ》

こどもが主体的に遊びを展開できるよう、日々保育について検討をしていきたい。そのためにも、園内外の研修や職員会議、チーム会議などで共通認識を持つことが必要となる。今後も地域に開かれた保育施設として、『主体的、対話的、深い学び』を念頭に置いて保育に従事していきたい。保護者からの意見・要望、苦情なども受け入れやすい環境が大切になるため保護者に寄り添いながら支援を行う。

以上